

みのげこばやしせいせき 蓑毛小林遺跡

秦野市No.154

調査期間 2013年12月1日～継続中
所在地 秦野市蓑毛
時代 近世、中世、奈良・平安、縄文
調査原因 中日本高速道路株式会社による新東名高速道路建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
遺跡位置 小田急小田原線秦野駅から北方約3kmに位置する。



主な調査成果

弥生時代以前、遺跡には東西2か所の痩せ尾根があり、その間に緩やかな谷状地形がありました。これまでの調査では、痩せ尾根の上から旧石器時代～縄文時代草創期にかけ、複数の石器製作址が見つりました。出土した石器の点数は、石器の細部を調整した時に飛び散る微細な調整破片まで含めると、合計5万1千点以上という膨大な数量になっています。中でも遺跡端の尾根上で見つかった「槍先形尖頭器」の製作址は2万1千年前に年代づけられ、槍先形尖頭器254点を含む約3万点の石器が発見されました。更に下層からは秦野市内では現在のところ最古の生活痕跡となる、約2万5千年前の石器製作址や礫群が発見されました。遺跡西端の尾根上には縄文時代草創期の槍先形尖頭器製作址と、炉跡とみられる配石遺構が発見されました。県西部の旧石器時代調査事例はまだ多くはありませんが、広く県内で見ても有数の旧石器時代遺跡と言えます。



Ⅲ区東 L1H層下層～B1層上層 槍先形尖頭器



Ⅲ区東 B2層 黒曜石製ナイフ形石器出土状況



V区 縄文時代草創期 配石遺構



V区 縄文時代草創期 調査状況